

用水不足に対応した稲作の技術対策

令和 8 年 3 月 3 日
農 業 振 興 課

この冬は、山間地の降雪量が例年に比べて少なく、土壌の保水量が少ない状況です。また、気象庁が発表した3～5月の降水量は、平年並～少ない予想ですので春先の用水確保が難しくなる恐れがあります。今後の気象予報等を確認しながら稲作作業の事前準備をお願いします。

I 代かき用水の確保

1 用水の有効利用

- (1) 水利組合と連携して、適切な計画的配水を徹底する。
- (2) 河川水を利用できるところは、利用を検討する。
- (3) 代かき水を循環利用する。

2 本田の漏水防止

- (1) 畦塗り機等で漏水防止を徹底し、モグラ穴等の点検もしっかり行う。
- (2) 水路の点検を必ず行ない、漏水防止を徹底する。
- (3) 暗渠を確実に閉鎖する。

II 育苗対策

1 苗の老化防止

- (1) 水不足が予想される場合は、移植時期が遅れる事を考慮して種子の浸種を始める。
- (2) 育苗期間を延長する必要がある可能性があるため、薄播きを徹底する。
薄播き(乾籾で120g/箱以下)を想定した種子予措を行い、種子残量は、再播種に備えて適正に保管する。
- (3) 苗を徒長させないため、出芽時の鞘葉長は1cm以下とし、緑化・硬化時の温度管理に注意し、灌水は控えめとする。
- (4) 苗が植付適期葉齢(2.5葉程度)となっても、移植ができない場合は、1週間程度育苗期間を延長するため、第2葉葉身を1/2程度剪葉し箱当たり窒素0.5g(硫酸50gを水10ℓに溶いて、箱あたり500cc灌水)を追肥する。
- (5) 第3葉展開期になっても、移植ができない場合は、さらに1週間程度育苗期間を延長するため、第3葉の1/2を剪葉し、第2葉剪葉と同様に窒素追肥を行う。

2 予備苗の育苗

育苗限界を越えての田植遅延が発生する恐れがある場合は、予備苗の育苗を行う。